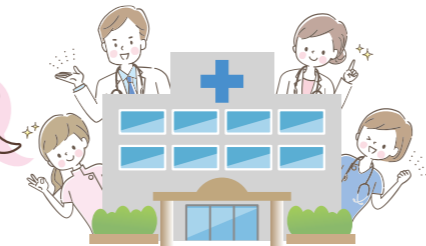


三次地区医療センター

病棟紹介

今回は4階を
紹介します!



4階病棟は回復期リハビリテーション病棟になります。主に脳血管疾患や大腿骨骨折など急性期病院での治療を終えた患者様のリハビリテーションを中心に行っています。日常生活動作の向上による寝たきり防止と在宅復帰を目的としたリハビリプログラムを医師・看護師・介護士・療法士・ソーシャルワーカーなど多職種で協働して作成し、集中的なリハビリを実施しています。近年は、療法士によるリハビリ時間以外を利用して、病棟スタッフと一緒にリハビリや、患者様自身が余暇時間に取り組める自主トレーニングの提案などに力を入れています。また、ノーリフティングの取り組みを進めており、移乗用ボードやリフトなどの勉強会を行い、業務の中に取り入れ、介護指導に活かせるよう知識や技術の向上を図っています。摂食嚥下認定看護師2名・回復期リハビリテーション看護師1名、経験豊富なスタッフも多い病棟です。皆で意見を出し合いながら、患者様の退院後の「生活の質の向上」「その人らしい生活」を実現できるよう頑張っていきたいと思います。



4階病棟 師長 日高 誉子



病棟面会
について

面会可能回数：毎日面会可能
面会可能日時：日祝日を含め毎日13:00から17:30
面会対象者：面会札を持参した中学生以上の方
1日の上限人数：2人・別々の来院も可
1日の面会時間：15分まで

※ご家族に面会許可証を2枚配布。(必ず面会許可証をご持参下さい)
※詳しくはホームページをご覧ください。

【感染対策】マスク着用、入室前手指消毒要/発熱・咳等有症状者は、面会を控えて頂く



三次地区医療センター

〒728-0013

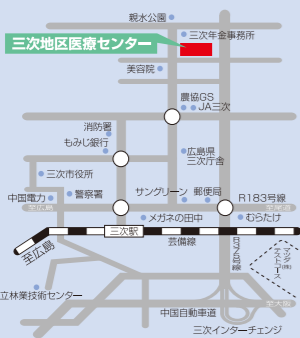
広島県三次市十日市東三丁目16番1号

TEL.0824-62-1103

FAX.0824-62-7341

E-mail:info@miyoshi.hiroshima.med.or.jp

ホームページ:https://www.miyoshi.hiroshima.med.or.jp/



理念

全人的医療を目指します。
地域密着型の医師会立病院としてかかりつけ
医と連携し、患者様に満足の頂ける医療・ケアを
行います。



2階病棟に配属となりました、看護師の近實と申します。

患者様一人ひとりに寄り添い、安心・安全な看護を提供していきたいと考えています。皆様に信頼していただける看護師を目指し、日々精進して参りますのでよろしくお願い致します。

看護師 近實 砂嬉

地域医療連携・患者支援室に配属となりました、社会福祉士の小田と申します。

まだまだ勉強中の身ではありますが、相談員として患者様や家族様に寄り添った支援をしていけるように尽力して参ります。よろしくお願い致します。

社会福祉士 小田 祐也

新人職員紹介

院長挨拶

令和8年度、当センターに新たに医師1名、看護師3名、療法士4名、社会福祉士1名が加わりました。厳しい医療環境が続く中で、数ある医療機関の中から当センターを選び、共に働く道を選んでくださったことに、心より感謝しております。

若く、地域医療に意欲のある多様な専門職が加わったことで、当センターはこれまで以上に多職種が連携し、互いに学び合いながら成長できる体制が整いつつあります。新たな仲間とともに、それぞれの専門性を高め、地域の皆さまにより質の高い医療・ケアを提供できるよう、職員一同取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

病院長 安信 祐治

新任医師紹介



久保 浩介先生

4月から勤務させて頂くことになりました久保浩介です。

県北の地域医療に貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



操田 智之先生

今年度より木・金で勤務させていただきます操田智之と申します。三次の医療に貢献できるようにがんばりますので、よろしくお願いいたします。



三反畑 亮先生

4月から勤務させて頂く三反畑亮です。糖尿病は合併症を併発しやすく、うまく病気とつきあっていくことが大切です。食事や運動の相談、薬物・インスリン治療を提供できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

令和7年度 広島県備北圏地域リハビリテーション 広域支援センター事業研修会

令和8年3月13日(金)、三次市福祉保健センターふれあいホールにて、広島県備北圏地域リハビリテーション広域支援センター事業研修会を開催しました。昨年度に引き続き、岡山県津山市役所の作業療法士 安本勝博様を講師にお招きし、住民「が」健康になるこれからの介護予防～全国一律から地域最適が議論される今、考えておくこと～をテーマにご講演いただきました。

当日は、行政・医療・福祉関係者や民生委員など、多くの方にご参加いただきました。高齢化が進み、働き手が減少していく中で、これからの地域にはどのような支え合いが必要なのかについてお話いただきました。全国一律ではなく、地域の実情に応じた取り組みの大切さについて学び、参加者とともに考えを深める機会となりました。

次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に向かい、行政を中心に、多職種・多分野と連携しつつ、関係者1人1人「が」主体となって、地域住民の健康づくり・健康寿命の延伸に寄与できるよう取り組みます。

リハビリテーション技術科 作業療法士 入江 一步



はつらつ コラム

血压計ってますか? 循環器内科の紹介



みなさんは普段、血压を測っていますか。健康診断で「血压が高い」と指摘されることが多い方や、家庭で測っても130mmHgを超えることが多い方は、高血圧症の可能性がります。高血圧症は約3人に1人がかかっていると言われる非常に身近な生活習慣病です。しかし自覚症状がほとんどないため、気づかないまま放置されてしまうことも少なくありません。血压が高い状態が長く続くと、心筋梗塞や脳卒中、心不全など、命に関わる病気を引き起こす原因となります。実際に心臓の病気は現在、日本人の死因の中でも上位を占めており、決して他人事ではありません。

私たち循環器内科では、狭心症や心筋梗塞、不整脈、心不全、弁膜症などの心臓や血管の病気を専門に診療しています。これらの病気に対しては、カテーテルを用いた治療が行われることも多く、身体への負担が比較的少ない治療法として広く行われています。三次地区医療センターではカテーテル手術そのものは行っていませんが、大学病院や安佐市民病院などの高度医療機関と連携し、必要に応じて速やかに紹介することで、患者様が適切な治療を受けられる体制を整えています。

また、治療後や心臓病の予防のために重要なのが心臓リハビリテーションです。心臓リハビリテーションでは、医師・看護師・理学療法士などが協力しながら、体力の回復を目的とした運動療法や生活習慣の改善指導を行います。適切な運動や食事、血压管理を続けることで、再発予防や生活の質の向上につながります。

循環器の病気は早期発見と継続的な管理がとても大切です。血压のことや動悸、息切れ、胸の痛みなど、少しでも気になる症状があれば、まずはかかりつけ医にご相談下さい。地域の皆さまの健康を守る身近な存在として、これからも安心できる医療を提供していきたいと考えています。

循環器科 医師 小武 瑤道

令和7年度 きらきら保育所 退所式を行いました

先日、令和7年度 退所式を行いました。入所した頃は、抱っこや泣き声から始まった子どもたちの毎日。その一人ひとりが、今では自分の足でしっかりと立ち、新たな一歩を踏み出す日を迎えました。子どもたちは、友だちや保育者との関わりの中で、たくさんの「できた」を積み重ねてきました。その成長を皆で喜び合う、笑顔と感動にあふれた退所式となりました。

院内保育所は、働く保護者の皆様を支える場であると同時に、子どもたちにとって「安心して過ごせるもう一つの居場所」です。ここで過ごした日々が、子どもたちの心の中にあたたかな思い出として残り、これからの成長の力になることを願っています。

今後も0歳からの育ちを大切にしながら、一人ひとりに寄り添った保育を行い、子どもたちとご家族が安心して未来へ進めるよう支えてまいります。

きらきら保育所 主任 谷本 あかり



保護者の声

泣きながら離れられない日も、にっこり笑って行けた日も、どんな時でも「よく来たね〜!」と優しく迎え入れてくださいました。赤ちゃんだった娘を預ける不安が、徐々に安心へと変わると共に、お迎えに行くと、その日の様子を丁寧にお話して下さるのが嬉しくて、家族を囲んでその日の娘の様子を話し、成長を感じられる時間がとても好きでした。今ではたくさんできることが増え、今春無事に退所の日を迎えました。これまで一緒に愛情深く成長を見守っていただき、ありがとうございました。